

・ホテル、旅館の現状

まず、ホテルと旅館に違いについて、そもそもホテルも旅館も同じ「宿」ですが

「旅館」「ホテル」という種類に分かれており、日本の「宿」業を規定する法律、「旅館業法」という項目があり、第2条によると「旅館業」とはホテル営業、旅館営業、簡易宿所営業及び下宿営業と表している。

「ホテル営業」とは**洋式の構成及び設備**「宿泊料を受けて、人を宿泊させる」

「旅館営業」とは**和式の構成及び設備**「宿泊料を受けて、人を宿泊させる」

とかかれている。

・**ホテル**は客室が洋室であり観光地や温泉街といった場所に立つホテルで旅行者向けの設備になっており、基本的にホテルは室料制となり食事はホテル内のレストランなので別料金も発生する場合もあるが、一泊二食つきのプランもあり、観光業の発達により、ホテルの規模は大小様々で施設もテニスコート、プールなどの娯楽設備も豊富である。

・ビジネスホテル＝宿泊がメインで、レストランや宴会場をまたない。

・シティーホテル＝ツインルームが多い、レストランや宴会場もある。

・リゾートホテル＝日本の場合は温泉を引いており、ゴルフ場やスキー場、和室、洋室などの完備をしている。

・**旅館**は客室が和室であり一人部屋二人以上の旅行者を対象とし、修学旅行生や観光客がよく利用し浴衣や下駄、外履きの貸し出しもしており、着物と下駄で名物の温泉巡りなどが楽しめる。また、宿泊料金に食事代が含まれており、食事時間、入浴時間が決まっているのである

日本国内のホテル・旅館の数（厚生労働省調べ参照）

平成23年度衛生行業務報告によると、

日本全国のホテル営業軒数は9629軒で総客室数は80万2060室一方旅館営業軒数は4万6906軒で総客室数は76万4316室と旅館は総客室数がホテルより37744軒少なく、1990年度比較すると旅館は時代とともに減少してきている。

一方ホテルは年々増加傾向にあり、2010年ではホテル営業件数は少ないが総客室数の多い宿泊特化型のビジネスホテルなどが多く開業したことにより、総客室数だけが大幅に

増加している。

欧米文化流入により日本のライフスタイルが変わったこと、海外からのホテル利用者の増加によって洋式ホテルが好まれるようになったことが旅館件数減少の原因とされている。

ホテル			旅館	
	営業件数	総客室数	営業件数	総客室数
1988年	4563軒	34万2695室	7万8129軒	102万6107室
1996年	7412軒	55万6748室	7万0399軒	100万2024室
2012年	9629軒	80万2060室	4万6960軒	76万4316室

外資系ホテルの進出。

外資系ホテルは、長年蓄積させてきたノウハウをマニュアル化することでホテル経営をシステムティックに行うだけでなく、ブランド戦略やデザイン優れているために徐々にその数を増やしてきており、2002年以降はその傾向に拍車がかかり、東京都内に相次いで

外資系ホテルが誕生した。

‘02年10月に開業した「フォーシーズンズホテル丸の内東京」を皮切りに、‘03年4月に「グランドハイアット東京」（389室）‘05年7月に「コンラッド東京」（290室）同年12月に「マンダリンオリエンタル東京」（179室）‘07年3月に「ザ・リッツ・カールトン東京」（248室）同年9月に「ザ・ペニンシヤラ東京」（314室）そして、2009年3月に「シャングリ・ラホテル」（202室）と開業が相次いだことにより「東京ホテル戦争」と騒がれたが、2005年以降にオープンした上記のホテルの総客室数は1,233室で東京都内の客室数が平成20年末で9万3,769なのだから、その影響は1.3%程度の増加ではない。

2005年12月テルニューオータニ東京が火災で廃業したが、1479室を有していたことから考えれば1233室増えたからと言って単純に競争が激化することはない。